

# 学校農場の規模に応じた教員の適正配置

全国高等学校農場協会

## I. 目的

農業教員は、通常の業務を行う以外に、継続的に農場の管理を行っている。学校現場の業務量の増大や煩雑化する現状を踏まえると、その負担は大変大きく、学校運営や教職員の健康にも影響しかねない。

このような状況を改善し、より良い環境で充実した農業教育が実践されるためには、農業教職員の負担を軽減することが必要であり、そのためには教職員数の実態に合わせた適正配置が求められる。

農場協会では、農業教職員数の適正配置および待遇改善を実現するために、教職員の圃場管理等についての実態を把握するために次の調査を実施した。

## II. アンケート調査の対象と回答数

調査対象 農業関係学科を設置している高等学校

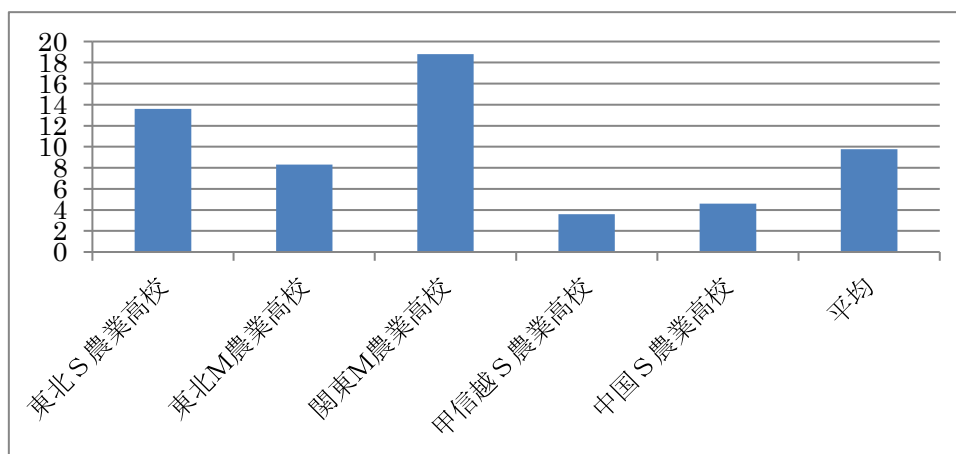
回答数 257校、461科

## III. 結果

### 1. 1校当たりの農場面積

1校当たりの全国平均は10haである。その中から代表的な学校を抽出し報告された科の面積を下記のグラフに示した。

注：山林と飼料畑を所有する学校は面積が広大で、山林や飼料畑は管理頻度も低いと考えられるため、それらを所有していない学校を対象に行った。



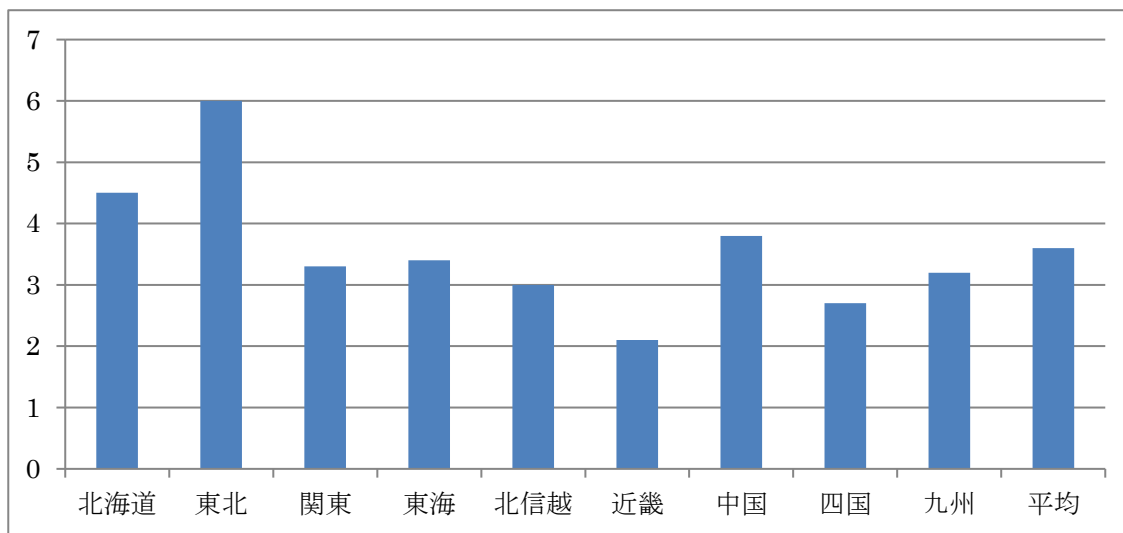
グラフー1 農業高校の農場総面積（例）（単位：ha）

「東北S農業高校」の農業科では、6haの水田と、3.7haの野菜畑を所有し、「関東M農業高校」の農業科では、10haの水田と、3.3haの果樹園、3haの作物畑を所有している。

また、これら5校の農場面積の平均は、約9.8haであった。

## 2. 農業科、園芸科の1科あたりの圃場面積

農業科、園芸科に属する圃場面積（水田、野菜、果樹、草花、作物の各圃場と栽培施設（ビニールハウス・温室）面積の合計）を、地区ごとに平均した。

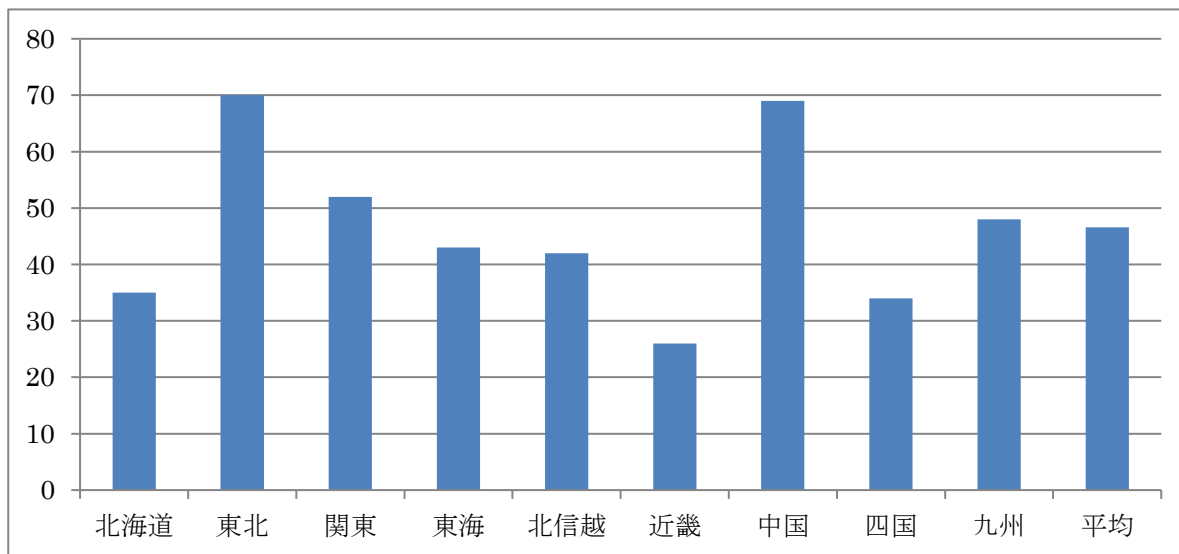


グラフー2 園芸科、農業科に属する圃場面積（単位：ha）

グラフー2から分かるように、農業高校1科の常時管理する圃場面積は、約2ha～6haで、平均約3.6haの圃場を管理している。

## 3. 教職員一人あたりの圃場管理面積

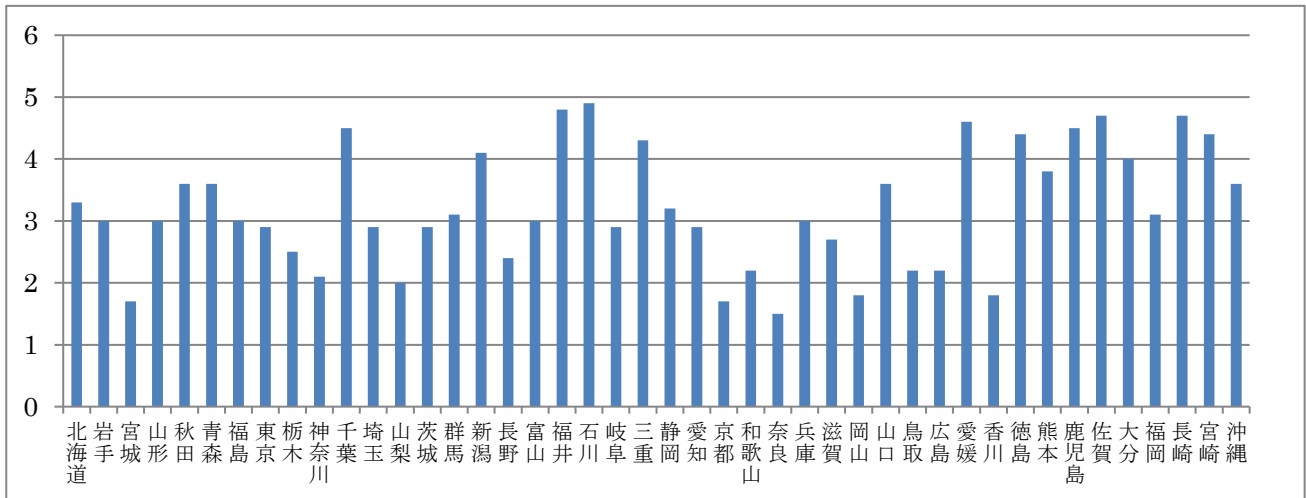
農業科と園芸科に該当する科の常時管理している圃場（水田、野菜圃場、果樹圃場、草花圃場、作物圃場、栽培施設（野菜・果樹・草花栽培のビニールハウスや温室）の合計）の面積を、管理している職員数で除した。



グラフー3 教職員1人が担当する圃場面積（単位：a）

グラフー3より、教職員一人が管理する圃場面積は、約30a～70aであることが分かった。

#### 4. 教職員一人当たりの1日の圃場管理時間



グラフー4 教職員1人あたりの農場管理時間 (h/1日)

教職員1人当たりの一日の圃場管理時間の全国平均は、3.2時間であり、毎日約3hを農場管理に費やしていることが分かった。

#### IV. 考察

- ・この結果から、全国の農業高校1校当たりの常時栽培・管理している圃場面積（山林と飼料作物圃場は除く）は、平均で9.8haであり、多い学校では20haを管理している。
- また、農業科や園芸科1科の圃場面積は、2ha～6haでは平均約3.6haである。これらの結果から、全国の農業高校では、広い圃場で作物栽培がおこなわれていることが分かった。
- ・農業科や園芸科の教職員1人あたりの担当する圃場面積は、多い学校では70a以上、小規模な学校でも30a程度であることが分かった。
- ・教職員1人あたりの管理面積平均47aであり、狭くない面積である。
- また、1人あたりの1日の管理時間は、多い学校では約5時間程度であり、少ない学校でも1.5h～2hで、平均して3.2hであった。通常の学校業務以外に毎日平均3時間以上の仕事（農場管理等）を行っていることが分かった。

#### V. まとめ

農業教職員は、1人あたりが担当する面積も多く、その管理のために、毎日平均、約3時間以上の時間を費やしている。このことが大切な教科指導や生徒対応へ十分な時間を確保できないなど課題である。さらに、過労による影響から生徒及び教職員の実習中の事故やケガにも繋がりがかねない。

農業教育は、日本の食量、自然、国民の健康などを支えている掛け替えのない教育であり、安全で豊かな環境の中で実践されなければならない。そして、農業は人を育てるポテンシャルを持っている。日本全国の農業高校の豊かな農場で、素晴らしい農業教育が実践されることは、日本の将来を担う子供たちを大きく育てることに繋がる。

これらのことから、全国の農業高校で、安全で充実した農業教育が実践されるために、農業教職員の適正な配置や教育環境等の待遇改善を強くお願いするものである。